

第40回 箕面市地域公共交通活性化協議会 会議録

1. 日時

令和2年10月29日（木） 午後2時00分～午後3時15分

2. 場所

箕面市役所 3階 委員会室

3. 出席者

(会長)

- ・箕面市副市長 柿谷武志

(副会長)

- ・箕面市地域創造部長 小山郁夫
- ・大阪大学大学院工学研究科教授 土井健司

(監事)

- ・公共交通に見識のある行政経験者 清田栄紀
- ・箕面商工会議所副会頭 松出末生

(委員)

- ・富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科准教授 猪井博登
- ・阪急電鉄株式会社交通プロジェクト推進部長 奥野雅弘
- ・北大阪急行電鉄株式会社常務取締役 神谷昌平
- ・阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部長 野津俊明
- ・一般社団法人大阪タクシー協会専務理事 井田信雄
- ・阪急バス労働組合副執行委員長 日田守
- ・大阪モノレール株式会社総務部長 白根忠
- ・みのおの交通を考える会の代表 永田よう子
- ・箕面市身体障害者福祉会副会長 羽藤隆
- ・大阪船場繊維卸商団地協同組合専務理事 寺本正満
- ・東急不動産 SC マネジメント株式会社みのおキューズモール総支配人 志村敦史
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画） 本田泰彦
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（輸送） 河原正明
- ・大阪府都市整備部交通道路室参事 梶川正純
- ・国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所管理第二課長 森俊彦
- ・大阪府池田土木事務所維持保全課長 今井浩文
- ・大阪府箕面警察署交通課長 福本博士
- ・国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課長 片田一真（オブザーバー）
- ・箕面市健康福祉部長 北村清
（代理出席）健康福祉部副部長 村田尚記
- ・箕面市教育委員会副教育長兼子ども未来創造局長 尾川正洋
- ・箕面市みどりまちづくり部長 藤田豊

(代理出席) みどりまちづくり部担当副部長 本田敦

(欠席)

- ・国土交通省近畿運輸局自動車交通部旅客第一課長 戸田辰司 (オブザーバー)
- ・箕面市市政統括監 小林誠一

以上、委員26名のうち25名出席、オブザーバー1名出席

4. 議 題

- (1) 規約・規程の改正について
- (2) 令和元年度事業報告及び収支決算について
- (3) 令和2年度予算の補正について
- (4) 運行状況について
- (5) 地域公共交通網形成計画について
- (6) その他

5. 議事要旨

- (1) 規約・規程の改正について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑なし。】

- (2) 令和元年度事業報告及び収支決算について

【原案通り承認する。】

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○収支率が伸びていない状況ではあるが、今回の収支率の悪化は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による出控え等が影響している。利用促進を図っていく必要はあるが、誤った情報発信をしまうと、市民の方々に違った意味合いのメッセージを発信することにもなりかねないので、PRの方法は慎重に検討しなければならない。

○オレンジゆずるバスを含めた公共交通機関の感染症対策の状況は。また、バスの利用を控えている人にこそ対策の状況等を知ってもらいたいと考えますが、広報の状況は。

→ (事務局) オレンジゆずるバスの感染症対策としては、運転士のマスク着用の義務化・運転士席へのパーテーションの設置・啓発ポスターの車内掲示・可能な限り窓を開けての運行を行っている。なお、オレンジゆずるバス車両については、窓が閉まっている状態であっても、換気装置やバス停でのドアの開閉により6～7分程度で車内の空気が入れ替わる構造となっている。
なお、感染症対策の状況等に関する広報紙やホームページでの広報は現状行っていない。

(阪急バス) 基本的にはオレンジゆずるバスと同様の対応。運転士については、マスクの着用・手洗いうがい・乗務前の検温を徹底している。また、JCOMM(日本モビリティマネジメント会議)作成のポスターを利用して安心して利用していただくよう発信している。

- (阪急電鉄) 基本的には他の公共交通機関と同様の対応。全車両内のつり革は抗菌・抗ウイルス加工を施している。
- (北大阪急行) 基本的には他の公共交通機関と同様の対応。車両内の抗ウイルス加工を施している。
- (大阪モノレール) 基本的には他の公共交通機関と同様の対応。全車両内は抗菌・抗ウイルス加工を施しており、車両の清掃にあわせて定期的な消毒作業も行っている。
- (タクシー協会) 運転士のマスク着用・運転席と客席間のパーテーションの設置・窓を開けての走行・車内の抗菌を行っている。また、これからは利用者にもマスクの着用をお願いする旨のステッカーを車両に貼付する予定。
- (大阪運輸支局) 広報にあたっては、大阪バス協会でも発信アイテムを作成しているので活用できる。
- (近畿運輸局) 10月30日に公共交通の安全性をPRするセミナーを開催する予定。市の広報を検討される際には、同内容を参考にして頂ければありがたい。

○オレンジゆずるバスの運行経費の財源としている介護保険を活用した市補助金の概要、補助金額の算定方法は。また、オレンジゆずるバスの路線がない地域も一部あるが、介護保険を活用した市補助金を財源とすることの公平性の観点からの見解は。

→オレンジゆずるバスに乗って外出していただくことで高齢者の閉じこもりを防止し、日常生活の充実度を維持・向上していただくことはオレンジゆずるバス運行の目的の一つである。高齢者の外出支援は介護予防に資する事業であることから、市補助金を財源としている。補助金額の算定については、大人運賃と高齢者割引運賃の差額を積算した金額としている。高齢者割引運賃の適用数については、利用者アンケート結果の割合を用いて算出している。公平性の観点については、健康教室等の他の介護予防の事業も利用者が保険加入者全員ではないことから問題はないと考えている。

(3) 令和2年度予算の補正について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑なし。】

(4) 運行状況について

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○路線バスでも、オレンジゆずるバスと同じく3月頃から新型コロナウイルスの影響を受け始めた。緊急事態宣言が出された4～5月は収入が50%減という大きな減収であった。1日あたりの利用者数を見ると、最も影響が大きいのは4月下旬あたりで平日は60%減、休日は70%減まで及ぶ。緊急事態宣言が終了した6～7月では、平日で80%、土日で70%程度まで戻ってきているが、頭打ちの状態。その後、7～8月は感染が再拡大し、マイナス傾向にある。今年の上半期(4月～9月)の累計では、収入でマイナス30%程度となっており、収入の減少による赤字額は今後ますます増大していく予想。なお、感染拡大という情勢の中、公共交通は市民生活に不可欠であるという観点から、一部減便は行ったが、基本的には通常通り運行を行っており、運行にかかる経費は平常時と大きな変わりはなく、収入の減少が利益の減少に直結しているという状況である。

○近畿管内で見ても、あらゆる輸送モードで、4～5月が底となり、その後回復しつつあるが、元の水準まで戻れない状況が続いている。

(5) 地域公共交通網形成計画について

【意見・質疑は次のとおり。】

○鉄道延伸の予定は延びたが、船場のまちづくりは予定どおりであったはず。先行する船場のまちびらきと鉄道延伸及びバス路線再編のズレに関する見解は。

→来春にも大阪大学が開校し、公共施設についても順次オープンしていく予定。大阪大学の学生や教職員の交通手段としては、路線バスや大阪船場繊維卸売商団地協同組合のCOMバスの活用等も含めて、現在協議・調整を行っている。公共施設の利用者のアクセスについては、今後見極めていくところではあるが、現在のバス路線網は、箕面市内の市街地から船場、千里中央へと集まっていく形になっており、アクセス性は問題ないと考えている。

○市と交通事業者でよく話し合って計画策定を進めていただきたい。

→計画策定に向けてしっかり話し合っていく。

(6) その他

【意見・質疑は次のとおり。】

○オレンジゆずるバスの運行について、新型コロナウイルスの影響で収入が減少しているが、減収分は市が負担するということか。

→市の予算を補正して財源を確保する予定。

以上